

<AIPPI セミナー開催報告>

AIPPI・JAPAN米国特許セミナー【対面式】

最近の当事者系レビュー及び特許訴訟の事例に基づく戦略

1) 開催日時：2022年11月10日（木）13：30～17：00

2) 講演者：Knobbe Martens

Kerry Taylor 博士（米国特許弁護士）

Irfan Lateef 氏（米国特許弁護士）

3) 内容：

<主なトピックス>

①PTABの最近の動向を踏まえた IPR 戦略

【講演者】 Kerry Taylor 博士

- ・当事者系レビュー（IPR）・付与後レビュー（PGR）各手続の概要と重要な PTAB の統計

IPR と PGR 手続きの紹介

技術分野別に見た 2022 会計年度の AIA 手続請求件数紹介

IPR と PGR のタイムライン、予備段階、審判開始決定、審判開始率、審判開始の範囲、審判、証拠開示手続

IPR と PGR 審判開始後のタイムライン

2022 会計年度の IPR 最終審決、AIA 審判の結果、最終審決と上訴

- ・裁量による審判開始却下に関する最新情報と関連戦略
Fintiv ルールを適用した PTAB の裁量による却下の動向、ルール適用の条件、統計データの紹介
Fintiv ルール適用による暫定手順
説得力のある実体的事項、ITC、地裁での訴訟に関する同意、裁判日の予測
- ・法定禁反言に関する最新情報と関連戦略
IPR と PGR における法定禁反言、関連する判決の紹介

②最近の特許係争事案に基づく戦略（訴訟・ITC・IPR）

【講演者】 Irfan Lateef 氏

- ・米国特許訴訟における最近の動向
特許訴訟件数、コンピュータ・通信・電子商取引関連の特許訴訟件数、当事者の本拠地、訴訟件数の多い米国地方裁判所、米国地方裁判所による救済措置、差止命令、米国特許法第 101 条に基づく異議申し立て件数について夫々の統計紹介
- ・米国特許法第 101 条（特許適格性）に関する判決の紹介
- ・特許の誤記又は翻訳ミスに関する最近の事例の紹介
- ・新法案の紹介（特許所有の自負法、特許適格性回復法、イノベーションにおけるアメリカのリーダーシップの回復法）
- ・リモートワーカーを考慮した適切な裁判地について
- ・米国国際貿易委員会（ITC）の手続
ITC による日本企業への調査件数、調査結果の紹介
- ・IPR と ITC の調査に関するスケジュール比較とアドバイス



Kerry Taylor 博士



Irfan Lateef 氏

本セミナーは、企業知財部や特許事務所等において米国特許実務に携わっておられる方々にとって、非常に有意義な内容であった。

以上